

分野（領域）	専門分野 I	科目名	看護学概論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次 前期
講師名 （時間・所属）	副島 照子（30 時間・好生館看護学院 教務部長 看護師）		
<p><科目設定理由> 看護学の概念を理解し、看護への関心を高め、看護の位置づけと役割を理解する必要がある。</p> <p><科目目標> 看護の対象である人間を精神的・身体的・社会的・スピリチュアルを統合した生活者として理解する。人間と取り巻く環境は、相互に関係しあっていることを捉え、その中で看護の役割と機能を学ぶ。看護における倫理を学び、対象者を尊重する行動や看護者としての姿勢を養う。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは 2. 看護の対象の理解 3. 健康の捉え方と国民の健康状態 4. 看護の提供者 5. 看護における倫理 6. 看護の提供のしくみ 7. 広がる看護の活動領域 			
<p><講義の進め方> 講義 演習</p>			
<p><受講要件> なし</p>			
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学 1 看護学概論 医学書院</p>			
<p><参考文献> よくわかる看護者の倫理綱領 照林社 フローレンス・ナイチンゲール看護覚え書－看護であること ・看護でないこと－現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 やさしく学ぶ看護理論 日総研出版 看護六法 新日本法規（新規版）</p>			
<p><評価方法> 講義終了後の試験で評価する。</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	コミュニケーション・指導技術
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	平川千津子（35 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師） 伊藤 文雄（10 時間・イトーデザインルーム 二科会デザイン部講師）		
<p>< 科目設定理由 ></p> <p>人間関係の基盤であるコミュニケーション技術・能力を養う必要がある。</p> <p>< 科目目標 ></p> <p>コミュニケーション技術を高め、自己や他者を理解することを学び、自己表現できる技術を習得する。</p> <p>対象が疾病や障害を理解し納得した治療を受け、より快適な日常生活が営めるよう対象に応じた面接技術や指導方法について理解する。また、媒体を作成し、媒体を用いて指導する技術を習得する。</p> <p>< 講義内容 ></p> <p>1. 医療者のためのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なコミュニケーションとは（ロールプレイを含む） ・臨床における接遇の実際（ロールプレイを含む） ・面接技術 ・プロセスレコードとは ・プロセスレコード検討 <p>2. 指導的活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人・集団を対象とする指導的活動 ・教材と媒体 <ul style="list-style-type: none"> イラストの基礎知識 イラスト作成 ・指導的活動の実際 			
<p>< 講義の進め方 ></p> <p>講義 演習</p>			
<p>< 受講要件 ></p> <p>なし</p>			
<p>< テキスト ></p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院</p>			
<p>< 参考文献 ></p> <p>看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディア</p>			
<p>< 評価方法 ></p> <p>学院教員：全講義終了後の試験・媒体などで評価する 伊藤：評価なし</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	フィジカルアセスメント
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	岡田智美（30 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p><科目設定理由> 対象の状態を形態・機能的側面から評価できる知識・観察力・判断力を身につけるため、方法・技術を習得する必要がある。</p> <p><科目目標> フィジカルアセスメントの必要性を理解して、看護者の五感を活用し、また機器を用いて対象の身体状態の評価（フィジカルアセスメント）ができる。</p> <p><講義内容> 1. フィジカルアセスメントとは ・観察方法 情報分析 2. バイタルサイン ・体温・脈拍・心拍・血圧・呼吸の性状・観察・測定方法 3. 身体各部の測定 ・測定方法 4. 打診・聴診・診療・問診の目的と方法</p>			
<p><講義の進め方> 講義 演習～技術のチェックあり</p>			
<p><受講要件> なし</p>			
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア</p>			
<p><参考文献> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院</p>			
<p><評価方法> 講義終了後に試験で評価する。</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	清潔・排泄・栄養の看護技術
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	長野由希（45 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p><科目設定理由> 対象の日常生活の生理的ニード面のメカニズムや機能について理解し、看護技術を習得する必要がある。</p> <p><科目目標> 対象の身体の清潔・栄養・排泄など生理的ニードについて理解し、対象の皮膚や粘膜などの機能や関連のある器官を正常に保ち、感染予防・爽快感が得られる看護技術を習得する。食事の生理学的意味と日常生活に与える影響を知り栄養の看護技術を習得する。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の清潔 <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の構造と生理機能 ・清潔の援助技術 ・全身清拭・足浴・洗髪・口腔内の清潔・陰部洗浄 2. 衣生活 <ul style="list-style-type: none"> ・衣類の選択と条件 臥床患者の病衣交換 3. 栄養と食生活 <ul style="list-style-type: none"> ・消化・吸収、患者食とは、食事の援助 ・栄養療法 ・非経口的栄養法の種類 経管栄養法・経静脈栄養法 4. 排泄 <ul style="list-style-type: none"> ・排尿・便の生理 ・排泄の援助方法 ・導尿・浣腸・摘便 			
<p><講義の進め方> 講義 演習～技術のチェックあり</p>			
<p><受講要件> なし</p>			
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる②臨床看護技術 メディックメディア</p>			
<p><参考文献> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院</p>			
<p><評価方法> 講義終了後に、試験で評価する。</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	感染予防・与薬の看護技術
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	坂井由美子（45 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>< 科目設定理由 ></p> <p>対象の検査・治療・処置時の心理を理解し、対象が安全に納得して診療・検査・治療が受けられる看護技術を習得する必要がある。</p> <p>< 科目目標 ></p> <p>対象と自身の安全を守るための感染予防や感染物の取り扱い、援助方法を習得する。薬物療法の技術を習得する。検査・治療・処置時の対象の心理を学ぶ。また、その治療法の意義を理解し、対象を中心として対象が納得できる説明方法、援助方法を学び正確な看護技術を習得する。</p> <p>< 講義内容 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染防止 <ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードプリコーション、滅菌物の取り扱い、感染経路、感染予防 2. 薬物療法 <ul style="list-style-type: none"> ・薬物の吸収と排泄 ・薬物療法の適用別種類（注射・内服・口内錠・塗布・点眼鼻・座薬） ・薬物療法の方法と援助 ・薬物の保管方法 ・採血・輸血・吸入・穿刺 3. 酸素療法 <ul style="list-style-type: none"> ・設備と機械器具、酸素療法の方法 4. 吸引 <ul style="list-style-type: none"> ・種類、援助方法 5. 診察・検査・処置 <ul style="list-style-type: none"> ・種類、対象の心理、援助方法 6. 包帯法・創傷管理 <ul style="list-style-type: none"> ・種類、巻軸帯ほか施行方法 			
<p>< 講義の進め方 ></p> <p>講義 演習～技術のチェックあり</p>			
<p>< 受講要件 ></p> <p>なし</p>			
<p>< テキスト ></p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる②臨床看護技術 メディックメディア 今日の治療薬 南江堂（薬物療法）</p>			
<p>< 参考文献 ></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院</p>			
<p>< 評価方法 ></p> <p>講義終了後に試験で評価する。</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	環境・活動・休息の看護技術
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	西村弘子（45 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p><科目設定理由> 対象を取り巻く環境について理解し、安楽な日常生活環境を整える看護技術を習得する必要がある。</p> <p><科目目標> 対象を取り巻く生活環境を理解し、対象に与える影響を学ぶ。対象の安全性など考慮して科学的で効率のよい合理的な姿勢や動作を習得する。安全・安楽な生活環境を整える看護技術について理解し、その技術を習得する。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクス ・移動動作 ・体位変換・車椅子移動の援助・ストレッチャー移動の援助・歩行の介助 ・睡眠と休息の援助 2. 生活環境 <ul style="list-style-type: none"> ・環境調整技術 ・看護における生活環境 ・病室の環境整備 ・病床の作り方と調整 ベッドメイキング・リネン交換 3. 苦痛の緩和・安楽 <ul style="list-style-type: none"> ・体位の保持 4. 褥瘡（冷褥法・温褥法） 5. 褥瘡予防 <ul style="list-style-type: none"> ・創傷管理技術 ・看護のアセスメント 			
<p><講義の進め方></p> <p>講義 演習～技術のチェックあり</p>			
<p><受講要件></p> <p>なし</p>			
<p><テキスト></p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術がみえる①基礎看護技術 メディックメディア</p>			
<p><参考文献></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院</p>			
<p><評価方法></p> <p>講義終了後に試験で評価する。</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	看護過程・看護記録
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	1 年次 後期
講師名 （時間・所属）	岡田 智美（45 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>< 科目設定理由 ></p> <p>対象の健康を精神的・身体的・社会的・スピリチュアルな側面から把握し、問題解決をするための科学的・系統的な理論に基づいた看護過程の展開方法及び看護記録を習得する必要がある。</p> <p>< 科目目標 ></p> <p>看護の対象を理解するために、その対象や取り巻く環境の情報収集の方法を身につける。また、その情報の意味を考えることができ、問題を明確化することができる。看護実践を行うための基本的な看護過程及び看護記録を習得する。</p> <p>< 講義内容 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論 2. 看護過程の基盤となる理論 3. 看護過程の構成要素 4. 看護過程とは <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント(情報の収集と分析) <ul style="list-style-type: none"> ・ 中範囲理論 ・ 関連図の作成 2) 看護問題の明確化(看護診断) <ul style="list-style-type: none"> ・ NANDA- I 看護診断 看護問題の種類 ヘルスプロモーション型看護診断 ・ 優先順位の決め方 3) 看護計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護目標の明確化 ・ 看護計画立案 4) 実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経過記録の書き方（POS 方式など） 5) 評価 5. 情報収集と観察・報告 6. 看護記録 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護記録の法的位置づけ ・ 看護記録の目的と機能 ・ 記載・管理における留意点：守秘義務 ・ 看護記録の構成 			
<p>< 講義の進め方 ></p> <p>講義 演習～事例展開</p>			
<p>< 受講要件 ></p> <p>なし</p>			

<テキスト>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

看護診断に基づく看護過程 (本学院テキスト)

NANDA－Ⅰ看護診断 定義と分類 医学書院

看護診断ハンドブック 医学書院

よくわかる中範囲理論 学研

New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研

<参考文献>

看護の基本となるもの 日本看護協会

人間関係の看護論 医学書院

やさしく学ぶ看護理論 日総研

<評価方法>

講義終了後に、試験またはレポートでの評価を行う


分野（領域）	専門分野 I	科目名	看護研究の基礎
単位（時間）	1 単位（45 時間）	開講時期	2 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	小池 久美（45 時間・佐賀県看護協会他 非常勤講師）		
<p><科目設定理由> 看護実践において見出した課題や疑問を科学的に解決する看護研究の過程を通し、自ら考える力を養う必要がある。</p> <p><科目目標> 現状に疑問を持ち自ら課題を発見する力を養う。さらにその課題を追求する姿勢を培い、問題解決に向けたプロセスを明らかにし、研究の準備ができる力を養う。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究とは <ul style="list-style-type: none"> ・研究になるもの ならないもの 2. 研究の意義とプロセス 3. 文献検索の意義と方法 4. 研究デザイン 5. 研究と倫理 6. 研究テーマの絞り込み 7. 研究計画書とは <ul style="list-style-type: none"> ・計画書を書く意義 8. 研究計画書作成 			
<p><講義の進め方> 講義 演習～学内での研究計画書発表</p>			
<p><受講要件> 看護学概論の単位を取得しておくこと</p>			
<p><テキスト> 黒田裕子の看護研究 step by step 医学書院</p>			
<p><参考文献> やさしく学ぶ看護理論 改訂版 日総研</p>			
<p><評価方法> 講義終了後評価。 成果を評価基準に基づき評価する。</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	臨床看護総論
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	1 年次 後期
講師名 （時間・所属）	田中希代子（30 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p><科目設定理由> 健康障害を持つ対象に対する看護を実践するため、その状態に応じた看護の視点を養う必要がある。</p> <p><科目目標> 対象の健康状態を精神的・身体的・社会的・スピリチュアルな側面から把握し、健康障害に応じた看護の視点を習得する。また、症状を示す患者や治療や処置を受ける患者に対する看護の視点を養う。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルから捉えた対象者と家族の健康上のニーズ 2. 家族とは <ul style="list-style-type: none"> ・家族の機能から捉えた対象者と家族の健康上のニーズ 3. 継続看護 <ul style="list-style-type: none"> ・生活と療養の場から捉えた対象者と家族の健康上のニーズ 4. 経過に基づく看護 <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の経過に基づく看護 急性期 慢性期 回復期 人生の最終段階 5. 主要症状を示す患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛、浮腫、呼吸障害、排泄障害、意識障害など 6. 治療・処置を受けている患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・化学療法、放射線治療 			
<p><講義の進め方> 講義 演習～事例展開</p>			
<p><受講要件> なし</p>			
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 医学書院</p>			
<p><参考文献> なし</p>			
<p><評価方法> 講義終了後に試験で評価する</p>			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	検査・治療を受ける患者の看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	相部 仁 他（6 時間・佐賀県医療センター好生館 放射線科 医師） 平野 敬之 他（6 時間・佐賀県医療センター好生館 検査部 臨床検査技師） 岡田智美（18 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p>< 科目設定理由 ></p> <p>検査・放射線治療や手術療法を受ける対象に対する看護を実践するため、検査や治療及び周術期に必要な看護の視点を養う必要がある。</p> <p>< 科目目標 ></p> <p>臨床検査を受ける対象を理解し、検査の意義、検体の取り扱い、検査成績の評価について理解する。</p> <p>また、手術を受ける対象及びその家族の心理や身体的状態を理解し、看護および手術室における看護の役割を理解する。</p> <p>放射線医学の基礎的知識と治療、検査について学び、放射線治療を受ける対象について理解する。</p> <p>< 講義内容 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査とその検査を受ける患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・検査時の対象の心理 ・検体の取り扱い方 ・対象への（方法など）説明 ・一般検査・血液検査・生化学検査 ・免疫血清検査・生理機能検査・細菌検査 2. 外科患者の病態の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・外科患者のアセスメント ・手術侵襲と生体反応、炎症、感染症、腫瘍、外傷とショック 3. 外科的治療を受ける患者の周手術期看護 <ul style="list-style-type: none"> ・手術を受ける対象の理解 ・外科看護の特徴 ・麻酔、呼吸管理を受ける患者の看護 ・体液・栄養管理 ・輸血療法、緩和医療 ・周手術期における安全管理 ・手術前・中・後患者の看護 ・手術を受ける高齢者の看護 4. 集中治療を必要とする患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・集中治療・看護の概念と役割、看護の実際 ・I C U の管理・運営 			

平野

学院岡田

<p>5. 放射線の基礎知識</p> <p>6. 放射線治療を受ける対象の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線医学の成り立ち ・X線診断 ・核医学診断 ・放射線治療 ・放射線防御と健康管理 ・放射線療法有害作用 ・放射線治療を受ける対象の注意点など看護 	 <p>相部</p>
<p><講義の進め方></p> <p>講義</p> <p>演習～事例展開</p>	
<p><受講要件></p> <p>基礎看護技術の1～6の講義を受講しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 周手術期 メディカ出版</p>	
<p><参考文献></p> <p>早わかり検査値ノート 照林社</p>	
<p><評価方法></p> <p>各講師の講義終了後に試験で評価し、加重平均する</p>	

分野（領域）	専門分野 I	科目名	リハビリテーション看護
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	2 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	片渕 宏輔（19 時間・佐賀県医療センター好生館 理学療法士） 坂本 宏子（11 時間・佐賀リハビリテーション病院 看護部長）		
<p><科目設定理由> リハビリテーションを受ける対象に対する看護を実践するため、対象の QOL の向上やその状態に応じた看護の視点を養う必要がある。</p> <p><科目目標> リハビリテーションの意義について理解し、回復時期や障害に応じたリハビリテーション看護についてその機能や役割を理解する。また、障害者を取り巻く環境を理解し、社会的な援助も含めて、対象のセルフケアや日常生活の身辺処理に対する援助方法について理解する。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの定義・意味 2. リハビリテーションの分類 3. 障害の分類と構造・実態 4. 障害者を取り巻く環境とその態度 5. リハビリテーション看護の機能・役割 6. 障害に応じたリハビリテーション看護 <ul style="list-style-type: none"> ・技術と日常生活援助と理学療法 運動器系リハビリテーション 中枢神経系（摂食・嚥下障害リハビリテーション） 呼吸・循環系（呼吸リハビリテーション） 感覚器系リハビリテーション <p style="text-align: right;">} 片渕</p> <p style="text-align: right;">} 坂本</p>			
<講義の進め方> 講義 演習～事例展開			
<受講要件> 看護学概論、臨床看護総論を受講しておくこと。			
<テキスト> 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
<参考文献> なし			
<評価方法> 各講師の講義終了後に試験で評価し、加重平均する			

分野（領域）	専門分野 I	科目名	看護研究の実際
単位（時間）	1 単位（30 時間）	開講時期	3 年次 前期～後期
講師名 （時間・所属）	光野まゆみ（30 時間・好生館看護学院看護学科 専任教員 看護師）		
<p><科目設定理由> 看護研究を行うことで、より良い看護を追求する意義を理解し、看護の発展に貢献する姿勢を養う必要がある。</p> <p><科目目標> 問題解決のための計画を実行するプロセスを理解する。また自分の思考をわかりやすく伝える力を養う。 さらに建設的・科学的な視点でクリティークできる力を得るとともに他者の意見を丁寧に聴き、受け入れる柔軟性を身につける。その過程を通し、相互作用によってより良いものを追求する意義を経験する。</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究データの分析 2. 研究発表の意義と目的 3. 研究発表に参加する意義・目的・姿勢 4. 効果的なプレゼンテーション 5. クリティーク 			
<p><講義の進め方></p> <p>講義 10 時間 演習 看護研究発表 20 時間 卒業論文として作成、本学院にて看護研究発表</p>			
<p><受講要件></p> <p>看護学概論、看護研究の基礎科目の単位を取得しておくこと</p>			
<p><テキスト></p> <p>黒田裕子の看護研究 step by step 医学書院</p>			
<p><参考文献></p> <p>なし</p>			
<p><評価方法></p> <p>講義終了後評価 研究成果を評価基準に基づき評価し、その結果を加重平均する。</p>			